

アンネのバラ

「アンネの日記」の作者、ドイツ生まれのユダヤ人少女アンネ・フランクは、2年1ヶ月のアムステルダムでの隠れ家生活の後、ナチスに捕らえられアウシュビッツ強制収容所などに入れられました。その後、1945年3月、15才9ヶ月の短い生涯を、チフスの病気によりベルゲン・ベルゼン強制収容所で終えました。戦後、家族の中でただ一人生き延びた父オットー・フランクさんは、ベルギーの園芸家デルフォルヘさんから贈られた、「アンネ・フランクの形見」と名付けられた新種のバラをスイスの自宅で育てていました。

そして、1972年にアンネ・フランクの形見としてホロコースト記念館に10株のバラの苗が贈られ、1975年には再び10株の苗木が届きました。その後、2007年にホロコースト記念館に“アンネのバラ園”が造られ、約50株のアンネのバラが植えられています。アンネのバラは、40年の間接ぎ木で増やされ多くの人に愛され育てられてきました。現在、アンネが願っていた平和を願うシンボルとして、アンネやホロコースト、平和について学びたいと願う学校や団体に贈られています。

(ホロコースト記念館HPより抜粋)

～ ホロコースト記念館(福山市)から贈られました ～

直江地区人権同和教育推進協議会では、令和6年9月にホロコースト記念館の視察研修をしました。その際アンネのバラの苗木を希望し、令和7年12月に2株が届きました。

アンネの父オットー・フランクさんは、“アンネをはじめ150万の子どもたちに、ただ同情するだけではなく、平和をつくるために、何かをする人になって下さい。”と述べています。また、アンネは、“なぜ人間は、おたがい仲良く、平和に暮らせないのだろう”と日記に書いています。

平和への思いのバトンを、アンネのバラを通して直江地区でも受け継ぎたいと思います。

直江地区人権・同和教育推進協議会

植樹：令和8年(2026)1月8日





おめでとうございます。



青少年育成者等功労表彰



山根 悟 様

このたび、山根悟様が多年にわたり優れた見識をもって青少年健全育成の推進に寄与された功績を讃えられ出雲市青少年育成市民会議より表彰されました。おめでとうございます。

健康長寿しまね推進会議 会長賞



直江地区健康づくりの会
会長 高橋 明子 様

このたび、直江地区健康づくりの会様が永年にわたり積極的に健康づくりに取り組み健康で明るい地域社会づくりに貢献された功績を讃えられ健康長寿しまね推進会議より表彰されました。おめでとうございます。



出雲圏域健康長寿しまね推進会議

出雲圏域会長賞(地域部門)



直江ふれあい
サロン 様



たんぽぽ 様



継続賞



よさこいチーム
KIRINJI 様



退任・新任のお知らせ

役員の退任および新任について、下記のとおりお知らせいたします。
今回退任の皆さま、長い間大変お世話になりました。

直江地区
民生児童委員

退任

水 義康 様
荒川 文雄 様

新任

陰山 健二 様

出雲地区
保護司

退任

勝部 篤 様

ふるさと直江の 地形 地質 景観 Vol.14



本シリーズも長くなり、今回で Vol.14 となります。
今回は、直江地区内で古くから知られている「井戸」と地質との関連について、まず直江町のすぐ南にある興林寺と東白寺の山裾にある井戸を題材として述べたいと思います。

私が小学校へ入学する前後の昭和30年代までには、直江地区の各家庭に井戸があったと思います。しかし、それらの井戸は、私の家の井戸がそうであったように、大半が鉄サビを含む「かなけ水」で、砂利・砂・木炭・シュロ等によりろ過して飲用水にしていたのではなかったでしょうか？直江町及び北側の平野部で、井戸水をろ過せずに飲み水とされていたという情報があれば、是非ともお教えいただきたく思います。斐川平野部の地下水は、斐伊川の上流域で行われた「かなれ流し」により、多量の鉄分を含むため、かなけ水になっていると考えられます。



①東白寺境内
西側の砂岩



②東白寺参道
登り口の井戸



③興林寺東側
竹やぶ下の井戸



④写真②井戸50m
西側の井戸



⑤写真③井戸東側の
水田跡

ところが、例外的に興林寺・東白寺の山裾にある井戸は、ろ過せずに飲むことができ、日本酒や醤油の醸造水として利用されていました。これは、左上の地質図に示すように、これらの井戸が「斐川層」の砂岩まで深く掘り込まれていることによると推察されます。上記2寺とも本堂・境内は、「斐川層」砂岩の丘陵上にありますが、井戸は1段低い境内の登り口にあります。

地質図では、東白寺は平野部の沖積層（未固結の砂・粘土）となっていますが、シリーズ(12)で述べたとおり、ここも砂岩で構成されています（右上の写真①）。東白寺参道登り口の井戸を写真②、興林寺本堂前の池と竹やぶを挟んでその東側山裾の井戸を写真③に示しました。

ここで、砂岩という岩の中から地下水が湧き出るのは不思議に思われる方もおられると思いますが、「斐川層」の砂岩のように元々

が細粒の砂が固まった岩で、鍬やスコップで掘削できる程度に軟らかい岩であれば、水を透す性質があるのは不思議ではないと考えられます。写真②の井戸の約50m西側には、もう一つの井戸（写真④）がありますが、この井戸は昭和30年代まで周辺の住民に広く供用されていました。

また、写真③竹やぶ下の井戸は、東側に谷の水田跡が広がっており、井戸は山裾を切り込んだところに、掘削されているようです（写真⑤）。おそらく、沖積層のかなけ水が流入しないようになっていると考えられます。これらの井戸は、今後想定される大災害時に役立つもので、適切な維持管理が望まれます。

今回は直江町部の井戸で精一杯となりましたが、次回チャンスがあれば、堀切地区御井神社の三つの井戸について述べたいと思います。

角田彰（東本町）

ご寄付のお礼

直江地区自治協会へご寄付をいただきました。
〔香典返し 金一封〕（届出順）

- ・伊藤 健 様（伊藤 喜代子 様 / 令和7年9月）中筋小原
- ・神門 邦夫 様（神門 昌子 様 / 令和7年11月）新川
- ・高橋 丈晴 様（高橋 一郎 様 / 令和7年11月）新町
- ・桶田 貢 様（桶田 朝野 様 / 令和7年10月）つつじヶ丘1

（ ）内は故人

ありがとうございました。

直江地区自治協会を通じて地域活動団体・社会福祉団体等へ配分し、有効に活用させていただきます。

直江コミュニティセンターからのご案内

●近日開催イベントについて

※詳細については配布チラシにてお知らせいたします



- ★子どもスケート教室……………1月24日(土)
- ★そば打ち体験……………2月8日(日)
- ★ふるさと探訪……………2月28日(土)

※天候などの影響で変更や中止になる場合があります。